令和２年　予算特別委員会3日目【総務費】

↓↓↓質疑応答↓↓↓

【松澤質問】

　私からは、１７９ページ、地域振興経費、１８５ページ、自動通話録音機購入、１９９ページ、品川区独自ボランティア「しな助」について質問いたします。

　まずは、地域振興経費からです。決算特別委員会、一般質問でもお聞きしましたこの地域振興経費について質問いたします。品川区では、昨年７月に人口４０万人を超え、まだまだ増える予測が立てられ、住み続けたいまちとして大変な人気があり、生まれ育ったまちとしても私も大変誇りに思い、魅力をより一層高めていくためにも、引き続き尽力していきたいと決意を新たにしているところであります。その中で、人口増加に伴い、地域の人と人とのつながりの希薄化を考え、町会・自治会加入へ向けての取り組みを質問し、電子申請やＱＲコードを活用するというご答弁をいただきました。

　そこで、これまでの取り組みとしまして、シナモロールのはがきやＱＲコードなど、さまざまな努力をしていただきましたが、町会の活動はどのようになってきたのでしょうか。現状をお知らせください。

【川島地域活動課長答弁】

これまで、区では転入者を対象に、シナモロールのはがきのデザインで町会・自治会の加入促進に努めてきたほか、このはがきに今年度、ＱＲコードを印刷しまして、電子申請での加入申し込みができるように整備させていただきました。こちらのほうは２万５,０００部ほど印刷いたしました。今年、私は印刷していないと思っていたのですが、印刷しております。また、加入促進のために町会が配布する町会名入りのてぬぐいやパンフレットなどを購入する際にかかる経費の補助ですとか、さまざまな支援を行ってきたところでございます。

　お問い合わせの町会・自治会活動の現状ということにつきましては、区の支援策をさまざま活用していただくことで、加入促進に役立てていただいております。それから、バスハイクですとか、餅つき大会など、さまざまなイベントを実施していただき、町会・自治会活動の活性化に活用していただいているということで、町会・自治会の皆様からも感謝の声をいただいているところでございます。

【松澤質問】

　物資の支援購入、また、イベントの活用ということで、大変喜んでいるという声は、私も実際に聞いております。

　平成２８年４月には、２３区初となります品川区町会および自治会の活動活性化の推進に関する条例を制定しました。町会・自治会に大変力を入れていただいていることがうかがえます。まず、加入が一番であります。しかし、その後、町会活動に継続して参加してもらうことの難しさ、若い人たちとのつながりがつくれないなどの課題が大変多くあり、課題解決には遠いと感じております。区では、１７の補助金制度で盛り上がりを図っており、感謝しておりますが、町会内で事業を立ち上げることが難しい点があると感じております。一般質問でもお聞きしましたが、ＮＰＯが中心に趣味でのつながりをつくるなど、地域や町会でつくりづらいコミュニティ形成のサポートなどを支援していただきたいと思いますが、ご所見をお伺いいたします。

【川島地域活動課長答弁】

　町会・自治会活動をする上で、例えば、ＮＰＯに限ったことではないのですが、文書作成ですとか、パソコンのスキルを持った方など、町会・自治会の役員の方が苦手な分野、それから求めるもの、そういったところをつなぐ支援を求める声があるということでございます。

　例えば、今年度、ＮＰＯということであれば、ＮＰＯの活動の紹介冊子を区のほうで作成いたしまして、各町会に配布したところでございます。また、行政書士会のご協力によりまして、町会の事務のサポート制度を立ち上げまして、規約作成、それから議事録作成などの支援を行っております。引き続き、このような町会・自治会の活動の活性化につながる支援策を続けてまいりたいと考えてございます。

【松澤質問】

　行政書士の方の支援、文書スキルの支援、いろいろな支援を入れていただき、これからも町会のつくりづらいコミュニティの活性化につなげていただければと思います。

　これは働き方改革になってしまうかもしれませんが、神戸市では、副業を通じて、職員の意欲向上と地域の課題解決を狙い、地域貢献活動に限りですけれども、役所での職務以外での報酬を受け入れられる制度、これを２０１７年４月に設立しております。これは、ＮＰＯ法人で開催した障害者支援、語学教室など、活動に２０名ほど加わったというお話がありました。堂々と報酬を受け渡せ、役所の方も誘いやすくなったとあります。

　品川区としても、職員の方がボランティアで、住んでいる町会活動をしている方はいらっしゃるとお聞きしております。いろいろな取り組み、こういうものを試していただいて、こうした新たな活性化に向けたお考えをと思いますが、ご所見のほうをよろしくお願いいたします。

【川島地域活動課長答弁】

　職員の仕事のスキルを地域貢献に活用するという考え方は、民間企業でも既にとり入れられております。品川区でも数年前から、地元の消防団に入りましょうと推奨するような制度化をしてございます。今後も、このような制度によりまして、町会・自治会活動の活性化につながるような取り組みがないかということで、さまざまな可能性を探ってまいりたいと考えてございます。

【松澤質問】

そういった形で、どんどんいろいろな形を考えていただいて、さらなる活性化に向けて頑張っていただけたらと思っております。品川がさらに魅力的なところになることを願って、次の質問に移らせていただきます。

　次は、自動通話録音機です。前回、ほかの委員からも質問がありましたけれども、全国で１７万台確保してあるこの自動通話録音機拡充を願い、いろいろ質問をしましたが、東京都の補助事業でもあり、区市町村の調整をしなければならず、課題も多いと言われ、１,５００台、台数は増えることができなかったとお聞きします。やはり、なかなか難しい事業なのかと思いますが、世田谷区では累計１万台以上無料貸し出ししているとありますが、自治体での数の差が出る要因というものは何でしょうか。

【黛生活安全担当課長答弁】

各自治体において差が出ます理由は、私のところでは明確にはこれはわからないところではございますが、それぞれの区の被害の状況、また、人口の多さなどにもかかわるのではないかというふうに考えております。お話のありました世田谷区では、過去、被害件数がワースト１位というのが連続で続いているという状況もあり、また、人口も９４万人と非常に多いと、こういうところから関係しているのではないかと推察をしております。当区におきましても、区内の情勢とか犯罪の認知件数など、よく見極めまして、対応してまいりたいと考えております。

【松澤質問】

　品川区における被害件数、これは減少していると前回もお聞きしました。大変すばらしいことだと思っております。警察を中心に、区民が一丸となってまちを守る、意識連携のつながりの結果だと思っております。銀行やコンビニでも、声かけにより１万７６１件、これを未然に防ぎ、特殊詐欺に繰り返し使われた固定電話、これにつきましても、都道府県警の要請により８８７件停止しているという記事がありました。しかし、詐欺犯罪はやり方をどんどん変えていく中、現状、今、警察のほうで気をつけている特殊詐欺などはありますでしょうか。

【黛生活安全担当課長答弁】

　１つは還付金詐欺であります。区内でも被害の件数は減りつつありますが、還付金詐欺だけはやや増加傾向にあるということで、注意をする犯罪でございます。もう１つは、特殊詐欺関連詐欺と申しまして、警察官などを装いまして、被害者のお宅にお伺いをして、被害者の隙を見てカードをすりとってしまうという犯罪が増加傾向にあるということで、警視庁でも注意を喚起しているところでございます。引き続き、区内の４警察署や関係団体とも連携をいたしまして、注意喚起に努め、被害のさらなる減少に努めてまいります。

【松澤質問】

　私も、カード詐欺が非常に多くなったというのは、新聞でもよく読んでおりますので、引き続き、区民の安心・安全を守り、特殊詐欺ゼロを願いまして、次の質問に行きます。

　次は、品川区独自ボランティア「しな助」についてです。東京２０２０大会に向けて集まっていただいたこの２９団体、個人で５１１人もの方たちが、大会後は解散するということが決まっているというお話を伺いました。今、人材が不足する中、また、ボランティア不足という中、せっかく大きく５００人以上集まったボランティアの団体を解散するというのはどうももったいないといいますか、何かにつなげられないかなと思いますが、その辺のご所見のほうをよろしくお願いいたします。

【辻オリンピック・パラリンピック準備課長】

しな助についてのご質問でございます。しな助自体は解散いたしますが、メンバーの方がまた地域の活動につながっていけるような方策は、これからもいろいろ考えていきたいと思っているところでございます。

【松澤質問】

　そういったボランティアの団体を、品川ボランティアセンター、社会福祉協議会などにつなげていただくとか、そういう形を要望して終わらせていただきます。